

2004年 12月15日発行(隔月刊)



# ろうあ文化

2004年12月  
第47号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会  
 〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290  
 発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
 編集責任者 宇田川 幸 子



## 目 次

連載「点字から識字までの距離」(44)(山内 薫)	1
新しい介護(平瀬 徹)	5
漢点字と中国語 —川上泰一先生逝去10周年を記念して—(村田 忠禧)	7
主要症状に対する理療施術(4)(小池上 惇)	13
酔夢亭読書日記(7)(安田 章)	15
ご報告とご案内	18
漢文のページ	21
平野久美子と短歌鑑賞	23



## 点字から識字までの距離 (四四)

### 知的障害の方への

#### 図書館サービス(四)

#### ふれあいセンター福祉作業所での

#### サービス(一)

#### 山内 薫 (墨田区立緑図書館)

緑図書館で知的障害の方へのサービスを積極的に取り組み始めたのはごく最近のことです。

一九九五年、図書館の近くに「ふれあいセンター」という区の施設が建設されました。

「ふれあいセンター」は一、二階が保育園、三階、四階が知的・肢体障害者の方々の福祉作業所、五階が高齢者の方の作業所、そして六階から八階までが高齢者住宅という建物で、高齢者住宅は「ふれあいセンター」高齢者住宅シルバーピア」という二〇戸の住宅です。

図書館から歩いて十分程度の場所にありますが、途中交通量の多い三ツ目通りという幹線道路を渡らなければなりません。

そこで区役所の住宅担当の方から依頼があり、居住者の方への説明会のおりに図書館のサービスについて説明に行きました。そして月一回高齢者住宅の七階にある集会所で貸出をすることになりました。

数十冊の本を箱に詰め、その箱を台車に乗せてふれあいセンターまで運んで、午後三時から一時間弱、集会所で貸出を行うのです。ほとんどの方が一人暮らしをしておられ、中には日中は働いておられる方もいますので、毎回五〜六人の方が利用して下さる程度でしたが、毎月楽しみにして下さっていました。

七階の集会所にエレベーターで昇ってしまうために、最初はよく分かりませんでした。一階で知的障害や肢体障害の方とお会いすることもあり、下に授産施設があると知り、担当の同僚と是非下の福祉作業所でもサービスをやりたいと話していました。

そこで、一九九八年の六月に福祉作業所を見学させてもらうことにしました。作業所は四階にあり、班ごと何種類かの仕事を各部屋でやっています。見学、一緒にボールペンを透明な袋に詰める作業をして、何人かの方と色々な話をしたり図書館のPRをしたりしました。そして翌月から高齢者住宅と同じ日に貸出を始めることになりました。

高齢者住宅で貸出するのが三時からですので、その前の二時半から二時四五分までの作業所の休憩時間に、三階にある食堂のテーブルに本やCDを並べて貸出を始めました。

漫画やCD、絵本、動物や鉄道の写真集などを持つ

て行きましたが、初回は登録者が六人、子ども向けの料理の本、漫画、カセット六本、CD三点が借りられました。

作業所の作業が四時前に終わりますので、高齢者住宅での貸出が終わるとほぼ同じ時間になり、少し待っていると皆さんが次々と一階のロビーを通過して帰られます。

そこで一階ロビーにあるガラスケースの上に貸し出されなかった資料をもう一度並べて、次回の訪問予定日を書いてチラシを配ったり、帰りの時にも借りられるようにしましたら、一時半の休憩時間に食堂に来られない方も何人か借りて下さるようになりました。

半年も過ぎる頃には一五人くらいの方が借りて下さるようになりましたが、一五分という短い休憩時間では、四階の車いすの方は三階の食堂までは来にくいことや送迎バスを利用している方は帰りの時間は忙しくて資料をゆっくり見ている時間がないことが分かりました。

そこで翌年の三月からはお昼休みの十二時から一時までの間、全員が集まる食堂の脇にある廊下の棚の上



食堂前の廊下で窓際に並べられた資料を見ている利用者、食堂側の壁に寄り添っているのは職場体験学習で図書館に来た中学生

に資料を並べて貸出することにしました。その結果利用者は常に二十人以上の方が借りて下さるようになりました。

借りられる資料は何といってもCDが多く、最近の若い人のCD、当時ですとスピード、ザード、グレイ、エブリ・リトル・シング等々が人気がありました。福祉作業所にはかなり高齢の肢体障害の方もり、カセットの演歌系の歌手のものも希望がありました。漫画も人気がありドラえもん、セーラムーン、ドラゴンボールなどは必ず借りて下さる方がいます。

他にはお菓子の作り方など子ども向きの料理の本、ウサギやハムスター、盲導犬など動物の写真集や鉄道飼いの本、電車の写真集や鉄道雑誌、デイズニールランド関連のガイドブック、アイドルの載っている「Myo. Jo」などの雑誌、子ども向きの星占いなどの本等がよく借りられた資料です。

利用者と会話を交わすようになるとそれぞれの方の

要望も分かるようになります。

ある方はお祭りが大好きと伺い御神輿の写真の載っている本や全国のお祭りの載っている本などを毎回用意しました。また、ある方は東映の時代劇や高田浩吉の出ている本ということで関連の写真集などを探してお持ちします。

当時の三つのエピソードを同僚がまとめていますので、以下にそれを紹介します。

### ★エピソード一

訪問三回目の頃、宮沢りえの「Santa Fe」を持っていったら、周りの反響は大きかったけれど軽い知的障害のあるYさんが借りてくれた。

それ以降毎回、樋口可南子、島田陽子等のヌード写真集を持つていったところ借りてくれた。

ただ、周りの利用者の目を気にしてYさんが借りにくそうにしていたため、あらかじめ手提げ袋に資料を入れ、他の人には中身が分からないよう貸し出すことにした。

それでも、他の利用者にわかってしまい、女性の利用者からは、非難の声があがったようで、センターに直接持つていくのはやめにした。

Yさんは、現在怪我をして休んでいるが、治ったら図

書館に来てもらいたい、他の人の目を気にしないでヌード写真集を選んでもらおうと思う。

### ★エピソード二

Kさんは、知的障害がある人で、店開きをしても借りていけない人だった。あるとき、別の利用者で竹之内豊のファンがいて、薬局からもらった「メデイエード」のポスターをあげたことがあったのだが、Kさんもそれを機に親しく話し掛けてくるようになった。

実はKさんも、竹之内豊とキムタクの熱烈なファンだった。彼女にはその後、別の職員が持つてきてくれたキムタクのサントリーのポスターをあげたところ、とても喜んでくれた。

その後、竹之内豊の写真集のリクエストがあったが、所蔵無しのため、竹之内豊がモデルになっているセーターの編み方の本や、雑誌、チラシを探しては、訪問時に持つていったが、とても喜んでくれた。今でも引き続き雑誌に載っていればチェックし、コピーを取ったり貸し出ししたりしている。

そのKさんが、作業所のお休みの日に図書館に遊びに来てくれた。その時は、編みこみヘアのスタイルブックを探しているというので書架を案内したが、その後も時々訪ねてきてくれるようになった。

## ★エピソード三

Sさんは、軽い知的障害と下肢障害を併せ持つ人で、大沢たかおのファンである。Kさんと同じく写真集を希望したが、大沢たかおの写真集は墨田区の図書館では所蔵していなかったため購入してもらった。また、モデル時代の写真が見たいというので、大宅壮一文庫の目録で検索し、雑誌のバックナンバーを他の図書館から取り寄せて提供した。また、数年前主演したドラマの原作が読みたいといわれたときは、他区から借りて対応した。あまり雑誌には登場しないが、新しく記事が載れば、コピーして提供している。

担当者が、「大沢たかお、大沢たかお」と騒いでいるので、このごろは雑誌の担当を始め、他の職員も雑誌等をチェックしてくれて、記事があれば教えてくれるようになった。一九九九年の二月に大沢たかお主演のドラマの放送があったとき、なんとなく録画しておいたのだが、それを数カ月後に思い出しSさんに譲ろうと思い、六月に作業所を訪問した折に打診してみた。が、その場ではことわられてしまった。

その日の夕方、Sさんからの電話があり、他の人の手前受取づらかったが、本当はビデオが欲しいとのことだった。Sさんには、後日図書館に来てもらい、ビデオを

渡しながらいろいろな話をした。Sさんいわく、作業所は障害の程度がいろいろで、自分は中途半端な状況だから、周りに気を使うことも多い。

本当は大沢たかお以外にも四字熟語の本や、森繁久弥の新聞等も読んでみたいと思っているが、他の利用者にあまり知られたくないということも話してくれた。Sさんには、今後、図書館に直接来て借りたらどうかと勧めてみた。（竹内静子）

また、車いすのT君のようにスピードのファンだと分かった場合には、雑誌の表紙や広告などにスピードが出ていると必ず持つて行くようにしていた。当時エプソンのプリンターのコマージャーにスピードが使われていたことがあり、秋葉原の電気街にあるエプソンショップまで行って広告チラシをもらいに行ったりしました。

利用者の様々な要望が分かるようになると、図書館で所蔵している資料だけではとても対応しきれないことになり、その人の興味や関心の視点から様々な資料やものを見ることになるのです。

さて、昼休みに貸出を行うようになって、昼食後二〇分程度は貸出作業に追われるけれど、残りの二〇分ほどは余裕が出来るので、二〇〇〇年から貸出の後に紙芝居を行うようになりました。（以下続く）

# 新しい介護

平瀬 徹



「以下は、漢点字使用者で本会会の、名古屋在住の平瀬徹さんから寄せられた文です。

とりわけ視覚障害者は、一つの世界に閉じ籠もりがちになりますが、彼のように、どんどん外へ出て、普段体験できない世界に触れることは、大いに糧になるはずです。」

先日、生活とリハビリ研究所を主宰する三好春樹先生の講演を拝聴する機会に恵まれました。

彼は、高校の生徒会会長として学生運動の中心となり、卒業を目前に控えた一九六九年に強制退学させられました。

その後、職を転々としながら地元広島や隣の山口県で政治活動が続けましたが、当時の新左翼にとつての指導的思想家であった吉本隆明の影響で、日常生活の場から『生活者』として社会改革運動の再建を志すようになりました。

そんなとき、特に老人介護への関心もないまま、に二四歳でたまたま知人の依頼があつて、広島県内の特別

養護老人ホームの職員になりました。

俗っぽいものが嫌いで世間に背を向けていた三好青年はここで『もう一つの世間』に出会います。

二八歳から三年間、三好先生は九州リハビリテーション大学校に通い、理学療法士の資格を取得し、その後再び特別養護老人ホームに戻り、従来の禁欲的に努力するリハビリが思うような成果をあげないことに悩み、遊びやゲームの要素を取り入れた新しいリハビリを考え出して実施し、それらが老人をイキイキさせるのに非常に有効なのを知ります。

そうした現場での試行錯誤の積み重ねの中で、自分の守備範囲、つまり自分が人よりうまくやれる仕事は何なのかについての見極めが生まれてきます。と同時に、従来の介護の意味や方法を考え直し、新しい介護のあり方をもっと広い場で作り出していきたいという志向が生まれ、一九八五年、老人ホームを辞めて、東京に「生活とリハビリ研究所」を設立します。

先生は、「ベッドが高すぎるから寝たきりを作る」とおっしゃいます。

医療は人体を対象とするので科学になるけれど、介護は人生を相手にするから非科学的でいいとお話し



やっています。

リハビリしようという意欲がないお年寄りをベッドから起こして訓練室に連れて行くのに、化粧をさせて着替えさせたら行くようになったというお話がありました。



現代医療は急性期の治療を中心に進められています。

これを慢性期の介護にそのまま持ち込もうとするから生活を剥奪することになっているというお話が印象的でした。

専門学校で、卒業レポートとして、食欲不振についてのレポートを書かせたところ、最も成績が悪かった生徒はただ一言「鰻重を取る」と書いて提出したそうです。「どうして鰻重なのか」と問うと「自分が食べたいから」と答えたそうです。

その生徒は、お年寄りと同じ視線で話し相手になりたりケアできる心を持っているので、就職先からとても重宝しているという感謝の連絡があったそうです。

いくら栄養のバランスを考えて美味しい物を出しても、飽きてきます。時には出前を取る。

そして、元気が出てきたら外食に連れ出す。

それでもできればお好み焼きがいいそうです。

お好み焼きは焼けるまでに時間がかかるので、脳の刺激になってとてもいいそうです。

そして、お好み焼きを食べていると近くのテーブルではかき氷を食べているのが見える。そうするとお年寄りも食べたくなる。

食のバランスが変わり、とくに糖尿の人は気になります、それは一時のこと。

目先が変わると、次の日から施設の食事も美味しく食べられるようになり、結果的にはプラスに働くということですよ。

痴呆老人が徘徊（はいかい）など問題行動を起こすのは、身体の不調を非言語的に訴えていることが多いですよ。

その中でも最も多いのは便秘。

通常便秘のケアとしては、下剤、浣腸（かんちよう）、水分や繊維性食品の摂取、腹部マッサージなどを考えます。

しかし、これでは何の解決にもなりません。

先生が提案なさるのは「朝三〇分の排泄（はいせつ）ケアのためのヘルパー派遣」だそうです。



# 漢点字と中国語

一川上泰一先生逝去10周年を  
記念して一  
村田 忠禧



朝食後でも朝食中でも、とにかく  
便意を催したらすぐにトイレに連れ  
て行く。

当たり前のことを当たり前にさせ

てあげることが老人介護に最も大切とおっしゃっていました。

介護保険はチームケアで成り立っていますから、一ス  
タッフの志だけでできることはありませんが、専門的  
でありながら老人の個性、主体性を大切にするシス  
テムが構築されることを願っています。



## 漢点字との出会い

私が漢点字の存在を知ることにな  
ったのは一九九一年四月に横浜国立  
大学教育学部に是沢富夫さんが入学  
したためである。

是沢さんは漢点字使用者で、第二  
外国語として中国語を選択した。

私は彼が所属する日本アジア文化コースの教員であ  
り、中国語をも教えていたので、必然的に彼の勉学のた  
めの体制作りに関わることとなった。

当時、すでにパソコンで使える音声読み上げソフトは  
登場していたし、点訳ソフトもそれなりに揃っていたの  
で、それらを活用すれば問題は解決するだろう、と私  
は思っていた。

ところが是沢さんからは漢点字を使用できる環境が  
必要であるといわれ、そこで初めて漢点字とは何か、そ  
れを扱える環境を整えるには何が必要か、またそれを  
使ってどのような教材類を提供すればよいのか、といっ  
た問題に直面することとなった。

それまで私は視覚障害者を対象とし  
た教育に関わったことがなかったし、ワ  
ープロの世界にどっぷりと使っていた私に  
とって、パソコンの世界はほとんど初体験の連続であっ  
た。

鳴門教育大学の末田統先生、県立平塚盲学校の船  
越正夫先生、横浜漢点字羽化の会の岡田健嗣さん、墨  
田区立緑図書館の点訳ボランティアグループのみなさん  
など多くの方々のご指導、ご協力をいただいた。是沢さ  
ん自身から学ぶことも多々あった。





そして何よりも漢点字の生みの親である川上泰一先生から、漢点字についての説明や誕生にいたるまでのさまざまなご苦労話を直接うかがい、啓発されるいろいろなあつた。

みなさんのご支援をいただき、また文部省からの予算の配慮があつたおかげで、学習研究社の漢和辞典『漢字源』の漢点字版を編集・作成することができた。しかしこれを完成させるのに四年の歳月がかかつてしまい、川上泰一先生にその完成を報告することができなかつたことは残念である。

## 中国語の点字事情

もう一つ解決すべき問題として中国語の教育があつた。視覚障害者にたいする中国語教育というのはまったく予期していなかつた問題であり、そもそも中国語の点字に関する情報は皆無といつてよい状態であつた。

幸いなことには沢さんが入学した年の五月に台湾大学日本総合研究センター設立準備会が主催するシンポジウムが台北で開かれ、私はそこに招かれた。その機会に台湾の点字がどういふものを尋ねたところ、『国語点字』という中国語の点字を紹介した小冊子を手に入れた。

ついで同じ年の十月に北京を訪れた折に、中国大陸における点字がどうなっているのかを調べるため、北京盲人学校を訪れた。

北京を訪れる前に、漢点字を扱うパソコンのシステムの実際を知る目的で神奈川県立平塚盲学校を訪問していたので、それなりに日本の盲学校の実情を垣間見ていた。

文革期のことになるが一九七一年十二月に初めて中国を訪問した時に広東省広州市の聾啞学校を參觀したことがあり、ハリ治療を受けて聴力を回復し、話せるようになった喜びを歌と踊りで表現する聾啞学校の生徒たちの姿を目にしてとても感動した。

それは毛沢東思想の宣伝という目的を持ったものであつたが、ともかく私の脳裏に強烈な印象として残っていた。

しかし二〇年後に訪れた北京盲人学校は、施設の面で日本の盲学校よりはるかに立ち遅れているだけでなく、精神面でも意気消沈した様子で、かつて広州の聾啞学校での体験との落差はあまりに大きかつた。校長先生は申し訳なさそうな顔つきで、見学料を払っていた



だけないか、と私に申し出るのであった。

当時の中国は一九八九年の天安門事件（中国では「六・四動乱」と呼ぶ）の影響から抜けきれていず、西側先進諸国からの経済制裁の圧力を受けており、情況は大変厳しかったのだろう。しかしそれにしてもこれはあまりにひどい、と思わざるを得なかった。

この盲人学校で中国の点字を示す資料をいただいた。それは点字紹介のパンフレットではなく、彼らが日常使っている点字教材資料で、正直なところ、台北で入手したもの比べて見劣りするものであった。

しかしともかくこれで台湾と大陸における中国語の点字の概要がわかるようになった。

台湾にしる、大陸にしる、中国語の点字は日本のかな点字と同様、発音しか表現しないものであり、漢字を表現する点字ではなかった。

また台湾と大陸とは同じ中国語の点字でありながら、点字体系が異なっていた。つまり台湾と大陸の盲人が口頭で交流することは可能であるが、点字で文通したのでは通じないのである。

台湾にも大陸にも点字による教材はあったが、漢字を表現できないのでは積極的な意味を見出せないと判断し、当初は念頭にあった教材の購入を放棄してしま

った。今から考えると、この判断は正しくなかったのかも知れない。少なくとも初期の発音習得段階で中国語点字をきちんと教育し、その後には漢点字と中国語点字とを併用した教育を行っていたならば、もっと発展の余地はあっただろう。

ただそれを教えることになるわれわれ自身が、中国語の点字はもとより、点字そのものの知識を持ち合わせていなかったもので、そこまで踏み込んだ対応ができなかった。当時の判断が適切であったかどうかは別にして、今後の教訓とすべきと思っている。

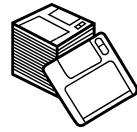
一九九三年十二月に再び北京盲人学校を訪れたが、学校の雰囲気はかなり変わっていた。九一年に行った時にはマッキントッシュのパソコンが何台かあったが、白い布に覆われており、使われている気配は見られなかった。

しかし今回は清華大学の茅于杭教授が盲人用に開発したソフトがあり、それを使って全盲の学生が中国語の文章を入力する場面を実演してくれた。

文字の自動的な読み上げで確認しながら入力するもので、かなりの速度で中国語の文章が入力されていた。末田先生が開発した日本語漢点字ワープロソフトと同様なことが可能になっていたのである。

清華大学にも行き、このソフトを開発された茅教授にもお目にかかり、そのソフトウェアのコピーをいただきたい。

残念ながら当時の日本で一般的であったNECのPC9801シリーズでは読めない1.4メガバイトのフロッピーであったし、OSその



ものが中国語でないと使えないため、せつかくいただいたソフトウェアも役に立たなかった。ともかく中国が落ち着きと自信を取り戻し、ゆつくりした足どりではあるが大きく変わりつつある、ということはこの時は実感できた。

一九九八年九月には北京の盧溝橋にある中国盲文書社（現在は中国盲文出版社と名称変更）を訪問した。

ここは中国唯一の点字図書出版社で、かなりきちんとした点字図書の印刷設備があり、出版している図書の点数も非常に多いことに驚いた。

政府がこの方面に力を入れるようになったのだ、と応対してくれた女性は私に誇らしげに紹介した。同時に、中国の点字が大きく変わりつつあることを知った。

中国大陸で使用されてきた点字は一九五三年に教育部に批准され、広く使われてきた「現行盲文方案」

というものである。

これは可能な限り字母の表示を国際共通化するという観点から点字が決められており、注音字母という中国語独自の発音体系から出発した台湾の「国語点字」と異なっていた。「現行盲文」は単語単位での分かち書きをするので声調は省略してかまわない、という方針であった。

しかし中国語の音節は一三〇〇にも満たない。そのためたとえば *tomato* という二音節を声調なしの無色の音節として表現した場合、「同志」「統治」「通知」のいずれなのかは前後関係から判断するしかない。このため古文や学術文献を読む場合にはとりわけ不便が発生する。この不便を解決するために声調をも表現できる点字として「漢語双ピン（手偏の并）盲文方案」（略称「双ピン盲文」）が考案され、二〇年以上におよぶ試行期間をへて、一九九六年から正式に実施されることとなった。

実施計画によると公開発行される盲文出版物は一九九八年よりすべて「双ピン盲文」に切り替わり、二〇〇〇年からは盲学校の教材も基本的に「双ピン盲文」を使用したものになるとのこと。

ただし中国盲文出版社のホームページで発売されている教材の一覧を見た限りでは、まだ「現行盲文方案」のタイトル数がまだ多い。新しい点字体系に移行するのはそう簡単なことではないのが実情のようだ。

この新しい「双ピン盲文」の特徴を大まかに紹介すれば、①字母の国際共通化という方針を放棄し、中国語自身の特徴に着目していること、②声母と介音を第一マスに、韻母と声調を第二マスに組み込み、すべての字の音節を声調も含めて二マスで表現できるようにしたことにある。

このため中国語の発音を正確に表現することが可能となり、前述の「同志」「統治」「通知」は明確に区別できる。この他にも、是、有、在、了といった特殊な常用語は一マスで表現できるなど、きわめて合理的なものである。音節表記における曖昧さが減るため、漢字（墨字）との情報交換が便利になるであろう。

漢点字を習得した人が中国語を学ぼうとする場合、この新しい「双ピン盲文」は積極的に習得する価値のある点字体系だと言えよう。

## 漢字を表現できる点字の必要性

前述した通り、私が盲人学校や盲文書社を訪れたのは中国語の点字を知るためであったが、同時に日本語における漢点字の存在を知ったので、これをぜひ中国人々にも紹介し、中国語にも取り入れることを勧めようと思ったからである。

私は『中国語学』二四〇号（一九九三年十月、日本中国語学会発行）に「点字による漢字表記の必要性和可能性——国際漢点字の創出にむけて——」と題する提言を発表し、漢点字を単に日本語の世界だけでなく、中国語圏全体に広めることを呼びかけていた。そして中国に行くたびに関係者にこの問題を提起した。しかし中国側はこの考えにほとんど反応を示してくれなかった。

今にして思えば、前述した通り中国は「双ピン盲文」という新しい点字体系への移行という大きな転換点に立っていたのに、私はそのことの重大さに気づかず、ただ漢字を表現できる点字の必要性にのみ関心を示していたのだ。お互いに自分の関心事にしか頭が回らなかつたため、議論がかみ合わなかったわけである。

ただし漢字を表現できる点字という考え方に中国人が非常に興味を示してくれたこともあった。それは一九九八年五月に香港を訪問した時のこと。

ご承知の通り、香港は一九九七年七月にイギリスの統治が幕を閉じ、中華人民共和国香港特別行政区になった。

香港城市大学での円卓会議での報告を終えたあと、香港のある出版社の友人から中国復帰後の香港の情

況をいろいろと聞いた。

そもそも広東語圏である香港では北京語を学ぼうとする気風はあまりなく、大学で学ぶ言語で、英語に次いで多いのは日本語であった。しかし中国への復帰を契機に中国人意識が強まり、大陸からの旅行者の数が日本人よりも増えたこともあり、共通語である北京語学習熱が巻き起こった。



これは書店に並べられた中国語学習図書の豊富なことから確認できた。広東語を話す健常者が北京語を学ぶのはそれほど大変なことではない。

両者の大きな違いは発音にあり、語法や語彙の違いは大した問題ではないし、簡体字も精神的な抵抗感がなくなれば容易に習得できる。

しかし広東語の点字（粵語点字）を習得した人が新たに北京語の点字を学ぶことは、発音体系がまったく違う点字体系の習得にあたるため、まさに一からの出直しとなる。

香港の盲人たちは、もし北京語が香港でも一般化することになると、自分たちは文盲に戻ってしまう、と心配しているとのこと。

だから漢字を表現できる点字があるとすれば、それは大変素晴らしいことで、大歓迎されるに違いない、と

友人は語ってくれた。

実際には香港が中国に復帰してからも広東語は禁止されていないし、粵語点字は今日でも使われている。香港の盲人の心配する事態は発生していない。

しかしもし漢字を表現できる中国語の点字体系があれば、香港でも、台北でも、上海でも、北京でも発音に関係なく十分に通じ合えるのだ。

日本語の漢点字をそのまま持ち込むのは問題があるが、川上先生が漢点字を発明したその発想を正しく理解すれば、中国語の漢点字（仮にそれを漢字盲文と名付ける）を創出することは十分に可能である。

しかも日本語において、かな点字と漢点字は対立するものではなく、いずれも日本語にとって必要な点字表記体系になっているのと同様に、双ピン盲文と漢字盲文とも対立し合うものではない。

中国においてまだ双ピン盲文が正式に誕生してからは浅い。まずはそれを普及させることが当面の課題なのだろう。

その普及を温かく見守りながら、同時に漢字を表現できる点字の可能性と必要性を訴えていくことが大切と思われる。

もし漢点字を習得した人が中国語を学ぶようになれば、具体的には双ピン盲文を習得するようになれ

ば、中国人の漢点字にたいする理解はもつと深まるだろうし、中国語においても漢字を表現できる点字体系を作る必要性があると実感するのではないか。かつて漢字は中国から日本に伝わり、日本に多大な恩恵をもたらした。もしかすると今度は漢点字がその恩返しをすることになるかも知れない。それが実現したら、天国にいる川上先生もさぞかし喜ばれることであろう。

## 主要症状に対する理療施術 (四)

小池上 博

### 四 変形性関節症

#### (一) 概要

変形性関節症は、老化などにより関節が次第に壊れ、変形し疼痛や運動制限を起す疾患です。

膝関節に最も多く、股関節などにも見られます。また、同様の病変は腰椎・頸椎などにも起こり、腰痛や頸腕症候群の原因となります。



痛みは、起床時・動き始め・疲労を感じる頃に強く

なります。天候の変化にも敏感で、かなり正確に天気の変化を予知することのできる人が少なくないといわれています。

#### (二) 変形性膝関節症の診察法

膝の痛みでマッサージの施術対象となるのは変形性膝関節症ですが、膝の痛みを訴える疾患には半月板や靭帯損傷などいろいろなものがあります。そこで、その痛みが何によるものか知るため、次のような診察を行います。

#### ア 問診

最初に、発症の時期、状況などについて尋ねます。次に、いままでの経過について確認します。

特に、整形外科での受診の有無を知ることは大事なことです。医療機関を経由して来院した人については、どんな診断を受けたのか、レントゲンなどの画像診断の結果、あるいは医療機関で受けた処置(注射や手術)などについても聞きます。

医療機関を利用せず直接来院した患者については、どんなときに痛みが強くなったりするのかについて詳しく聞く必要があります。

#### イ 膝関節の検査法

マッサージの施術を行ってもよい疾患かどうかを確かめるため、次のような検査をします。

## ① アプリーテスト

患者をうつ伏せにし、検査する人は痛みを訴える側に立ち、足を持って膝を九十度屈曲させ、検者の膝を大腿の後面に乗せ、大腿を固定してから足を引っ張りながら下腿を内外旋するとき膝に痛みがあれば、関節包・靭帯の損傷が疑われます。

また、足を圧迫しながら内外旋させて痛みや雑音があれば、半月板損傷が考えられます。

## ② マクマレーテスト

患者を仰向けに寝かせ、検者は患側に立ち一方の手で患者の足を持ち、他の手で膝を持ち、股関節や膝関節をできるだけ曲げさせます。

下腿をできるだけ内旋させると膝に痛みを感じることがあります。更に、その位置で膝をゆつくり伸ばすと「コリッ」という雑音を触れることがあります。この場合、テスト陽性で外側半月板損傷が疑われます。内側半月板を検査するには外旋させます。

## (三) 変形性膝関節症の主な症状

ア 初発症状は膝のこわばりが多いようです。

イ 膝関節の痛みは内側に多く、動き始め・疲労してきたとき・体重をかけたときなどに強くなります。歩行痛・正座痛・階段昇降時痛なども見

られます。

ウ 他覚症状としては運動時の雑音・関節の腫れ、

関節運動の制限・関節の変形・大腿四頭筋の萎縮などが見られます。

大腿四頭筋は大腿の前側にある幅の広い筋肉ですが、その萎縮は大腿周径を健側と較べることでよって知ることができます。

## (四) 治療法

### ア 治療方針

膝関節内および周囲の消炎・鎮痛・循環の促進・関節の運動範囲の改善を図ります。

### イ 按摩マッサージ指圧施術

① 患側の膝関節部・大腿四頭筋・大腿後側筋・ふくらはぎを中心に下肢の施術を行います。特に膝関節部では梁丘・血海・犢鼻・委中・曲泉など膝関節周囲にある経穴の圧迫を行います。

このほか大腿四頭筋の強化訓練・大腿後側筋群のストレッチも有効です。膝関節の治療に用いる経穴の場所は次の通りです。

梁丘：膝蓋骨の外上縁の上四センチ

犢鼻：膝蓋骨と脛骨との中央

血海：膝蓋骨の内上縁の上五センチ

委中：膝窩中央



曲泉：膝関節の内側の角

② 腰殿部や反対側の下肢の施術も行います。

ウ その他の療法

① 併用する物理療法

温熱療法・低周波療法などを行います。特にホットパックがよく使われます。

② 家庭でできること

a 生活の中で工夫トイレは、洋式トイレに変えます。

す。階段の昇降を避けるため生活の拠点を一階にして、椅子への生活に変えます。

b 体重を減らし、関節への負担を少なくするよう心がけます。



c 全身の関節を動かす体操を行います。

盲学校の臨床室にもときどき変形性膝関節症の患者さんが来ます。

整形外科で治療を受けてもほとんど効果がなかった人でも、マッサージや温熱療法により症状が改善し、歩行時痛が軽減したり、正座ができなかったものが短時間であれば正座可能になるなど症状にかなりの改善が見られています。

膝が痛くなったとき老化現象とあきらめず、マッサージ治療とともに体重のコントロール、生活の改善などを試みて快適な生活をして下さい。

## 酔夢亭読書日記 第七回

安田 章

「借金（金銭消費貸借契約）その他

お金を巡る問題について」その四

債務は履行するのが筋で、破産免責というのは緊急避難と考えるべきだろう。

借りたものは返す、というのは当たり前の常識である。当たり前の常識を破るのであるから、債務者の方へのつべきならない事情や同情すべき余地があつて当然である。

民法の第一条②は、基本原則「信義誠実の原則」を謳っている。「権利の行使及び義務の履行は信義に従ひ誠実に之を為すことを要す」わけである。自己破産、免責にしても義務の履行がどうしても出来ないせば詰まった状況打開のために行使したいものである。

まさに「権利の濫用は之を許さ」ないわけだ。

それはそうとして先にも触れたとおり、自己破産者は毎年増え続けている。

平成十四年二十一万四千件余、平成十五年二十四万二千件余である(最高裁判所速報値)。

自己破産という法的手続きを取るわけではがないが、相当に追い込まれている多重債務者は一五〇万人以上といわれている。

自己破産者や多重債務者を狙うヤミ金融業者も増えている。

世の中には弱っているものを徹底的にいたぶり、吸い尽くす輩がごまんといるから、債務で首が回らなくなったらそのような吸血鬼よりも劣る輩には間違っても近づかないことである。

東京神田の街を歩いていると、五千円から貸します、という看板が軒並み並んでいる。この五千円で転落していく人生もあるわけだ。

聞くところによると、街角で金貸しのプラカードを持って一日中立っているおじさんたちは、自己の労働により債務の返済をしているらしい。

河合直美氏の放送大学の卒業論文「多重債務者の心理特性」によれば、多重債務者は世間でイメージされている派手で見栄っ張りというより、「大局的に物事を考えるのが苦手」という無計画性と、「困っていても気



軽には人に相談できない、相談する友人がいない」という孤独傾向に集約できるという。

かたや、貸す側のヤミ金融業者が重視する借り手の人柄は、第一に「約束を守る人」、第二に「真面目でかけひきが苦手な人」、その他に「内気で他人に余り相談しない人」が業者には都合がよい(「ヤミ金融」鈴木宏明著、岩波ブックス)。

人間、追い込まれると本来持っている性善なるものが隠れてしまう。夜逃げや自殺、あるいは犯罪にまで追いつめられてしまうであろう。

そうならないために私たちは自分自身で予防できる問題と社会的制度的に予防できる問題とを有機連関的に組み合わせ、たかだか金銭如きで花も実もある人生を棒に振らないために知恵を働かせていきたいものだ。

自分自身で予防できることとして、金融庁のホームページ「節度ある利用について」にこうある。

## (二) 計画的な借入れ

計画的な借入れとなるよう利用の際には次の点を確認して下さい。



① 本場に借入れが必要か。

② 無理なく確実に返済ができるか。

③ 手数料や金利はいくらになるか。

④ 契約書の内容は理解できたか。

金銭借入れに際してこのように冷静に考えられる様な人であるならば、そもそも多重債務に陥ることもなからうと思われるが、書いてあることに異論はない。サラ金の宣伝にも、「ご利用は計画的に、借りすぎに注意しましょう」とある。

サラ金がこんな親切めいたコピーを流すぐらいなら、利息制限法内の利息で商売したらどうですか、と悪態のひとつもつきたくなる。

いずれにせよ、金銭債務依存体質そのものを改善していく必要がある。

この体質改善はいろんな意味で甚だ難しく感じられるが、我慢してやるしかないだろう。

依存体質を独立独立歩の自立体質に変えることは、掛け声は簡単だが、行うは難し、である。

第一、日本国家自身が超債務超過に陥っていて自己破産寸前ではないか。範を示すべき国家が借金依存体質そのものである。

財部誠一氏のつくるホームページに日本国家の借金

時計という恐るべきものがあって、一秒刻みで猛烈に借金が増えていく様子が分かるようになっていた。

それによれば、日本の借金は一秒あたり九二万円弱、一日あたり七九四億円の猛スピードで増え続け、一年間にはなんと二九兆円になる。そしてたいたい現在(平成十六年十一月二十三日)の借金は、七〇四兆九三六億円、明日の今頃には七〇五兆円となる。

政官財の力ネにまつわるスキヤンダルを見聞していると、真面目に金銭債務を果たしていこうという気が失せてくるのもむべなるかなとも思われるが、気を取り直してやっといこうと酔夢亭は提案するのみである。

一国一家を富ますにはどうしたらよいか。二宮尊徳翁は斯く語った。

「米は蔵にたくさん積んで少しずつ炊き、薪はたくさん小屋に積みあげて燃やすのはなるべく少なくし、衣服は着られるようにこしらえておいて、なるべく着ずにしまっておく。

これこそが家を富ます方法である。

つまり国の経済の根本である。天下を富裕にする大道も、実はこれ以外にないのだ。」



〔二宮尊徳翁の訓え〕野沢希史訳 小学館)

尊徳翁の言われることが現代の大衆消費社会にあつてはナンセンスであるかどうか、考えてみることは決して無意味ではないと思うのだが、如何であろうか。

「借金(金銭消費貸借契約)その他お金を巡る問題について」四回にわたつて書いてきたが、一応今回で終了する。

当初の目論み通りにはいかなかったが、金銭については今後いろいろなバリエーションで考えていきたいと思っている。

「利害の対立が存在するにもかかわらず、一方が他方に屈服してしまつて鬭争にならないのは、一方が人間であることをやめて他方の完全な奴隷になっている証拠である。」

一書房)  
「誰も書かなかつたケンカのかた」増尾由太郎著三

多重債務で首が回らなくななくても、決して自己の誇りを失わず、闘おう、と言いたい。

以上



一 日本漢点字協会主催の、川上泰一先生没後十年、機関誌「新星通信 百号」を記念する式典が催されました。

去る二〇〇四年十一月二十日(土)、大阪の日本盲人情報文化センターを会場に、13:30から催されました。

本会から、岡田と木村が出席しました。  
式典は、加藤俊和理事(京都ライトハウス点字図書館館長)の司会の下、会長(川上先生の奥様)のご挨拶と協会の活動に功労のあつた方々への表彰があり、川上先生のご遺徳を偲ぶことができました。その後、木塚泰弘氏(日本点字委員会会長)のご講演、「日本語と漢字」を拝聴しました。

休憩の後、シンポジウムとして、理事各位のご報告と、各地の漢点字普及活動のご紹介があつて、16:45に、無事終了しました。

懇親会は、料亭・徐園に会場を移して、18:00から行われました。

中華料理とお酒の酔いとで、和やかで賑やかな会になりました。

私達は帰途の都合で19:30に中座させていただきましたが、会は、さらに盛り上がりつつ行った様子でした。

先生の奥様をはじめ、普段なかなかお目にかかれない方が多く、できるだけ親しくお付き合いさせていただければと念じながら帰路につきました。

この七月三十一日(土)に催された、横浜国立大学の公開講座「二十一世紀の漢字文化を考える」で、「漢点字」を取り上げていただきました。その折りの模様を録音して、DAISYに編集したものを、協会の機関誌「新星通信 百号記念誌」の付録として読者の皆様に配布していただきました。

御礼申し上げます。



100号記念式にて

## 二 国際漢点字について

本誌にも掲載させていただきました、横浜国立大学・教育人間科学部教授の村田忠禧先生は、その末尾に、《中国においてまだ双ピン盲文が正式に誕生してからは、浅い。まずはそれを普及させることが当面の課題なのだろう。その普及を温かく見守りながら、同時に漢字を表現できる点字の可能性と必要性を訴えていくことが大切と思われる。もし漢点字を習得した人が中国語を学ぶようになれば、具体的には双ピン盲文を習得するようになれば、中国人の漢点字にたいする理解はもっと深まるだろうし、中国語においても漢字を表現できる点字体系を作る必要があると実感するのではないか。

かつて漢字は中国から日本に伝わり、日本に多大な恩恵をもたらした。もしかすると今度は漢点字がその恩返しをすることになるかも知れない。それが実現したら、天国にいる川上先生もさぞかし喜ばれることであろう。》

と記しておられます。

漢点字を漢字文化圏の視覚障害者に紹介するためには、我が国の、漢点字を使用している視覚障害者が、中国語を理解し、中国語を表記する現行の点字を理解す

ることが、必須と思われる。本会の会員をはじめ、漢点字を使用している視覚障害者の、一層の奮起が期待されています。

### 三 漢点字の学習会

① T H N 2 1 の学習会：二〇〇四年十月二十日(水)から、毎月一回、港区障害保健福祉センターを会場に、「漢点字学習会」の名称で開始しました。

『視覚障害者の識字』をキーワードに、視覚障害者の読書、文字、社会の認識について考え、(漢字)と触読用の漢字である(漢点字)の構成の比較の実践を試みています。現在の出席者は、関心をお持ち下さる一般の晴眼者の方々と、T H N 2 1 の会員の視覚障害者ですが、行く行くは、漢点字ボランティアの養成、視覚障害者向けの漢点字指導をも視野に入れた活動にしたいものと考えています。

十二月からは、第三木曜日が活動日です。

② 漢点字講習会：横浜では昨年、横浜市の後援をいただいて、本会主催の、視覚障害者向けの講習会を開催しています。オリジナルのテキストを使用して、通信制を基本に進めています。また、隔月にスクーリングを行って、通信制の不備を補っています。受講者の皆さん、漢字の世界を楽しんで下さって

ます。

来年度も引き続き実施する予定です。受講を希望される方は、ご遠慮なくお申し出下さい。

③ 漢点字訳ボランティア・養成講座：来る二〇〇五年六月十五日から、毎週一回、四回シリーズで、漢点字訳のボランティア講座を開催します。要領は、年明けに発表します。

四 平野久美子さんの短歌の欄が、本号を以て

終了します。

この二年に渡って、漢点字で短歌を鑑賞する欄に、優れた作品を、短い文章を添えてご紹介下さいました。平野久美子さんが、今回で終了されます。

大変残念ではございますが、ご多忙中お時間を割いて下さいましたことに、心より御礼申し上げます。

引き続き本誌を見守っていただければ幸甚に存じます。

ご質問お問い合わせは、E-MAIL:

[eib\\_okada@ybb.ne.jp](mailto:eib_okada@ybb.ne.jp)

横浜漢点字羽化の会・URL:

<http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>





# 漢文のペーシ

梁上君子 (りょうじょうのくんし)

時<sub>ニ</sub> 歳<sub>レ</sub> 荒<sub>レ</sub> 民<sub>儉</sub>。有<sub>レ</sub>

盜<sub>ニ</sub> 夜<sub>入</sub>。陳<sub>寔</sub> 室<sub>ニ</sub>、止<sub>マ</sub>

於<sub>ニ</sub> 梁<sub>上</sub>。寔<sub>陰</sub> 見<sub>、</sub> 乃<sub>チ</sub>

起<sub>テ</sub> 自<sub>ラ</sub> 整<sub>拂</sub>、呼<sub>ビ</sub> 命<sub>ニ</sub> 子

孫<sub>ニ</sub>、正<sub>シ</sub> 色<sub>ヲ</sub> 訓<sub>ヘ</sub> 之<sub>ニ</sub> 曰<sub>ハ</sub>、「夫<sub>レ</sub>

人<sub>ハ</sub> 不<sub>レ</sub> 可<sub>カラ</sub> 不<sub>ニ</sub> 自<sub>ラ</sub> 勉<sub>メ</sub>。不<sub>レ</sub>

善<sub>ノ</sub> 之<sub>モ</sub> 人<sub>モ</sub> 未<sub>ダ</sub> 必<sub>ズ</sub> 本<sub>モ</sub> 惡<sub>ナ</sub>、

習<sub>ヒ</sub> 以<sub>ト</sub> 性<sub>成</sub>、遂<sub>ニ</sub> 至<sub>ル</sub> 於<sub>ニ</sub> 是<sub>ナ</sub>

此<sub>ニ</sub>。梁<sub>上</sub> 君<sub>子</sub> 者<sub>ハ</sub> 是<sub>ナ</sub>

矣<sub>。</sub> 『後漢書』より

\* 前置詞的な「於」や、文末の「矣」  
(完了・断定の意)は読まない。

時に歳(とし) 荒れて民(たみ) 儉なり。盜(とう) 有りて夜陳寔(ちんしよく)の室に入り、梁上(りょうじょう)に止(とど)まる。寔陰(ひそ) かに見、乃(すなわ)ち起(た)ちて自(みずか)ら整払(せいふつ)し、呼びて子孫に命じ、色を正し之(これ)に訓(おし)えて曰わく、「夫(そ)れ人は自(みずか)ら勉めざる可(べ)からず。不善の人も、未(いま)だ必ずしも本より悪ならず、習性(せい)と成り、遂に此(こゝ)に至る。梁上の君子は是(こゝ)れなり。」と……

不<sub>レ</sub> 可<sub>レ</sub> 不<sub>ニ</sub> …… (…ざるべからず)

二重否定。…しなければいけない。

自ら勉めざるべからず。|| 自分で力しなければいけない。

未<sub>ニ</sub> 必<sub>ズ</sub> …… (いまだかならずしも…ず)

部分否定。必ず…というわけではない。

必ずしも本より悪ならず。|| 生まれつきの悪人というわけではない。

▼陳寔は、後漢の人。地方官として公正な裁判を行った。「梁上の君子」は、

現在では、盗人のこと。

また、ねずみの異名。





「梁上君子」より、陳寔の言葉

夫 人 ハ 不 可 カラ

不 ル 自 ラ 勉 メ 。 不 善 之

人 モ 、 未 ダ 必 ズ シモ 本

ヨリ 悪 ナラ 、 習 ヒ 以 性

成 リ 、 遂 ニ 至 ル 於 此

ニ 。 梁 上 ノ 君 子 者 是 レナリ

ト 矣 。

時に = そのころ。  
歳荒れて民儉なり = 凶作の年で、民衆は貧しかった。  
梁 = 家の棟を支える大きな横木。  
整払す = 衣服を整え、身の回りを整理する。  
色を正す = 威儀を正す。  
不善の人 = 正しくない人。  
習性となり、遂に此に至る = ここでは、心ならずも悪を習慣とするうちに、本当の悪人になってしまうことを指す。

『<sup>ごかんじょ</sup>後漢書』 = <sup>はんよう</sup> 汜曄撰。後漢の歴史を書いた紀伝体の書。正史の一つ。

(このあと) 棟木の上に潜んでいた盗人は、<sup>ちんしよく</sup> 陳寔の言葉を聞いて驚き、地にひれ伏して、罪を認める。陳寔は、努力して善にかえるよう盗人をさとすとともに、悪心を起こしたのは貧しさによるものと、絹を与えた。このことがあってから、この地方には二度と盗みはなくなった、と記されている。

※ 高等学校教科書「古典一 漢文編」(学習研究社)と、同教科書準拠の参考書(朋友出版)を参照し、多くを引用させていただきました。

